

Fatigue and quality of life among thyroid cancer survivors without persistent or recurrent disease

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 牧, ゆかり メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.20780/00033291 |

主論文の要旨

Fatigue and quality of life among thyroid cancer survivors without persistent or recurrent disease

(転移あるいは再発を伴わない甲状腺がん術後患者における疲労と QOL)

東京女子医科大学 小児外科学
牧 ゆかり

(指導：内分泌外科 岡本 高宏教授)

Endocrine Connections DOI: <https://doi.org/10.1530/EC-21-0506>

Article ID: EC-21-0506 2022年2月1日に掲載

【要 旨】

がんに関連する疲労は患者にとって最も重要な問題の一つであるが、このテーマに関する研究はほとんどない。本研究では、横断調査によって甲状腺乳頭癌 (PTC) 術後患者における疲労の有病率を明らかにし、疲労と関連する臨床的特徴を特定することを目的とした。転移・再発のない PTC 術後患者に疲労と QOL を Cancer Fatigue Scale (CFS) および SF-36 version 2.0 で測定した。疲労の有病率は 41.8% で、CFS スコアは遊離 T3 値と有意な相関があった。遊離 T3 値と仕事を持つことは、CFS スコアの有意な予測因子であり、CFS スコアは、SF-36 のサマリースコアの有意な予測因子であった。PTC 術後患者において疲労は一般的であり、QOL の低下と関連していた。甲状腺の機能状態、特に遊離 T3 値は、その負担を軽減する上で考慮する価値があるかもしれない。